

## 第3回通学区域制に関する有識者会議について

徳島県教育委員会教育創生課

## 第3回通学区域制に関する有識者会議の概要について

1 日 時 令和6年8月27日（火） 午後2時から午後4時まで

2 場 所 徳島県庁 10階 大会議室（徳島市万代町1丁目1番地）

### 3 出席者

(1) 委員 17名中14名出席（欠席3名）

(2) 県 教育次長、教育創生課長 ほか

### 4 議事の概要

(1) 事務局から、これまでの議論等について説明が行われた。

(2) 委員による意見交換が行われた。

### 5 意見交換の概要

○入学者選抜における通学区域制に係る見直し案について、これまでの意見の中から、「見直しパターン」や「見直しの手法」、「並行（先行）して検討すべき事項」など、具体的な手法を整理・提示し、それぞれのメリットやデメリット、また実施する場合の留意点等の検討が行われた。

○「見直しパターン」についての意見交換では、出席した委員から「速やかに、撤廃」や「準備期間をおいて、撤廃」、「撤廃の時期を決めた上で、段階的に見直し」の案に賛同する意見が多数を占め、今後、将来的に撤廃する方向で議論を進めることについて、委員間の共通認識が図られた。

○一方で、通学区域制の撤廃には、「中学校の進路指導への影響」や「遠距離通学者の増加」など、多くの検討課題があるとの意見が、複数の委員から出された。

○今後は、今回の議論を踏まえ、「通学区域制の撤廃時期」や「見直しの手法」、「想定される課題への対応」などについて、先行県の状況等も踏まえ、更に検討を重ねていくことが確認された。

## 第 2 回通学区域制に関する有識者会議の概要について

- 1 日 時 令和 6 年 7 月 2 4 日（水） 午前 1 0 時から正午まで
- 2 場 所 徳島県庁 1 1 階 講堂 （徳島市万代町 1 丁目 1 番地）
- 3 出席者 第 1 回総合教育会議と合同開催
  - (1) 知事、教育長、教育委員 4 名
  - (2) 鳴門市長、小松島市長、吉野川市長、上勝町長（オンライン参加）、石井町長、神山町長、徳島市副市長、板野町副町長
  - (3) 通学区域制に関する有識者会議委員 1 7 名

### 4 議事の概要

- (1) 事務局から、各市町村教育委員会への聞き取り調査結果や 6 月県議会での主な意見等について説明が行われた。
- (2) 出席している市町長 6 名、副市町長 2 名から意見を頂いた。
- (3) 教育委員 4 名から意見を頂いた。
- (4) 有識者会議委員から意見を頂いた。

### 5 主な意見の概要

#### 【市町長・副市町長】

- ・それぞれの学校に特色を持たせ、行きたい学校を増やしていくべき。
- ・先に、現入試制度を改善する（受検回数拡大）議論が必要。
- ・廃止をする年度を決めて、段階的に進めていくべき。
- ・学区制に加え、学校の統廃合・魅力化も、一気に同時に進めていくべき。
- ・学区制を廃止し、挑戦したい者はしっかり学力を持って挑戦できる制度にする。
- ・学区制を撤廃する際には、他県の例にあるように、学校の生徒数の推移を注視しつつ、段階的に進めていくべき。
- ・見直しを行う際には、生徒や保護者の負担軽減のために、単独寮や総合寄宿舍等の設置も含め、何らかの通学支援策が必要。
- ・高等学校には、地域振興の核としての役割も期待されており、検討を進める際には、並行または先行して、県立学校の再編整備の考え方など、将来ビジョンが示されることも必要。

### 【教育委員】

- ・学区による規制より、人口減少のスピードの方が早ければ、流入率などではなく、募集定員や学校の統廃合も大幅に進めていくことが必要。
- ・魅力ある本当に子どもたちが行きたい、学びたい、本当に学習したいと思える高校を作っていくことができる転換期とすべき。
- ・現場の先生方、保護者、一緒になって考えていくという観点を持ちながら、議論を進めて欲しい。
- ・通学区域制だけでなく、募集定員の決め方についても併せて議論すべき。

### 【有識者会議委員】

- ・生徒の適切な進路指導、保護者の不安や混乱を煽ることなく、安定した学びの確保に努めることが必要。
- ・普通科の在り方や統廃合についての議論をすることが必要。
- ・現中学校2年生の子たちの受検時には、しっかりとした結論を出して欲しい。
- ・子どもたちにアンケートを取り、どういった高校に行きたいか、高校に何を求めているのかを把握し、それを反映していくことが大切。
- ・受検機会の見直しなど全県一区を踏まえた改革に向けての議論をすべき。
- ・学区制の検討と同時に、各学校の特色化を進めない限りは、子どもたちが主体的に学校を選択するという事にならない。

## これまでの意見の整理

### 【抜本的な見直し】

- 通学区域制の廃止が強く求められており、その実現に向けた具体的な道筋を示す必要がある。
- 進路選択の幅が狭められている生徒がいる一方で、一部の生徒には有利に働いている現状を解消するためにも、通学区域制の廃止が必要。また、学区内外の点数差については、現段階では子どもたちに説明できない状況であり平等な教育環境を提供すべき。

### 【段階的な見直し】

- 本県における高校の入学制度については、特殊性を考慮しながら段階的な見直しが必要。流入率を段階的に引き上げることや、全県一区校の増加などの対応が考えられる。また、高校再編の在り方など、他の方策と組み合わせた検討も必要であり、受検環境の整備も並行して進める必要がある。
- 地域に関係なく平等に高校を選択できるよう改善を図るべき。改善策とその実施時期を明示し、段階的に進めることが望ましい。急な制度撤廃は進学指導や受検に混乱をもたらす可能性があり、その場合は、周知や説明を行い、理解を得る期間が必要。

### 【慎重な対応】

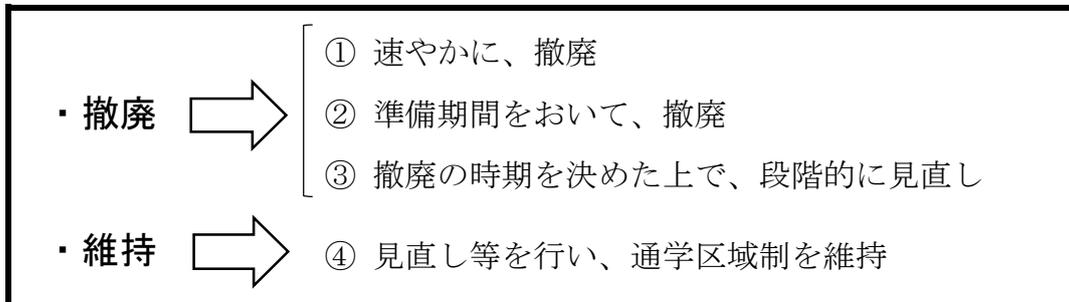
- 通学区域の見直しは、高校ごとの区域設定や中学校区の異なる単位を考慮し、過去の入学状況を踏まえた検討が必要。私立高校数が少ない現状も考慮する必要がある。
- 学区制の撤廃には不合格者の増加や地域・学校の衰退、経済格差による不利益が懸念される。急激な変化は避け、今後の高校の在り方や入試制度の見直しについて慎重に検討することも必要。
- 通学区域の変更に際しては、メリットを受ける生徒だけでなく、不利益を被る生徒への配慮が重要。理想的には学校が身近にあるべきであり、遠距離通学が生徒の学業や部活動に影響を及ぼすことがあるため、子どもたちの意見を取り入れた議論が必要。
- 各学区に拠点校を整備するなど、教育環境の整備が不可欠。

### 【特色化・魅力化の推進、入学者選抜の改善など】

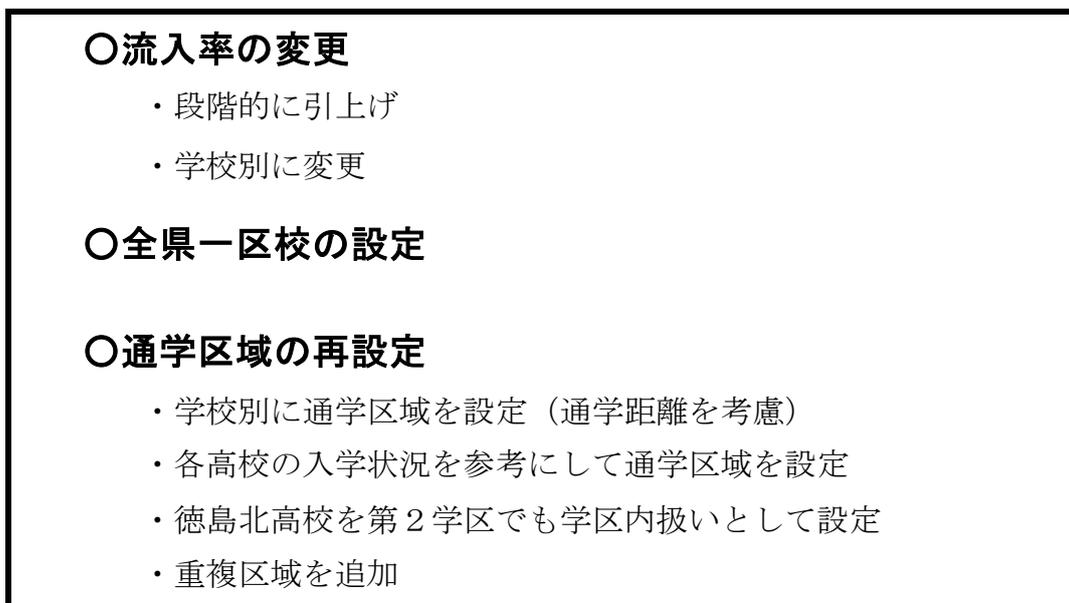
- 地域の生徒が進学したいと思えるよう、魅力化と特色化を進めることが重要。
- 高校受検の体制を整えるためには、複数回の受検機会や個人出願の検討が必要であり、長期的な視点が必要。
- 徳島市立高校は、地元中学生のための十分な定員を確保することが望まれる。
- 学区制については、全ての子どもが主体的に進路選択できる視点と、人口減少に伴う再編統合を考慮した地域と共にある学校づくりの視点を持って議論することが必要。
- 高校の魅力化を図る中で、地域間の格差が生じないように地域や行政の支援も必要。
- 学区制の撤廃が進むと、将来的に徳島市内の高校に進学しなければ難関大学への進学が難しくなる可能性があるため、地域ごとの教育環境を平等に整備することが必要。

# 入学者選抜における通学区域制に係る見直し案の検討について

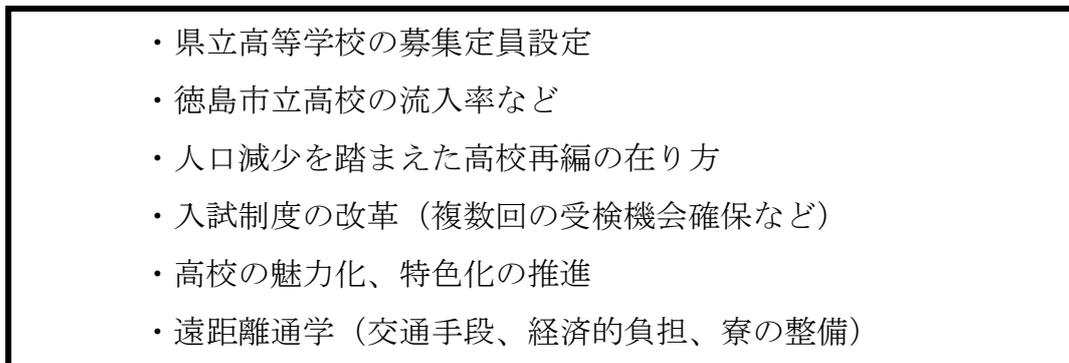
## 1. 【見直しパターン】



## 2. 【見直しの手法（③、④の場合）】



## 3. 【並行（先行）して検討すべき事項】



## 公立高校の在り方に関する聞き取り調査結果（概要版）

「生徒数の減少を見据えた公立高校の在り方の方向性」をテーマとして、県内24市町村教育委員会から聞き取りした意見（資料4-2）を、「適正配置・再編統合等」及び「特色化・魅力化」の2つの観点から整理しました。

「適正配置・再編統合等」については、19の教育委員会から意見があり、そのうち、高校再編の検討に関する意見（8）が最も多く、拠点校の整備や地元高校の存続に関する意見（各5）等も頂きました。

「特色化・魅力化」については、18の教育委員会から意見があり、地元自治体による地元高校の支援や特色あるコース・学科に関する意見（各7）を多く頂きました。

具体的な意見は次のとおりです。

### 【適正配置・再編統合等】

#### <高校再編>

- ・少子化が加速しており、現状の高校数を維持していくことは困難になる。
- ・普通科高校の再編が必要。
- ・公共交通機関の現状や経済的な負担等を考え、慎重な議論が必要。

#### <拠点校の整備>

- ・地域ごとに生徒や保護者から選ばれるような核となる普通科高校が必要。
- ・県西部、県南部に拠点となる高校を絶対に残さなくてはならない。
- ・県西部地域における教育振興策として、例えば新たな総合高校を新設する構想も考えられる。

#### <地元高校の存続>

- ・自宅から通学できる範囲に公立高校があり、県下同水準の学びが保障される環境を維持してほしい。
- ・小規模校でしかできない教育の良さという視点も必要。
- ・公立高校が地元が存在することが、人口や経済に大きく貢献をしており、地方創生に直結している。

#### <その他>

- ・全県的な視野に立った議論を。
- ・私立学校の少ない本県において、公立校の果たす責任は、他県とはその重さが大きく異なる。
- ・よりよい教育環境等の確保のための方策を行い、遠距離通学者の抑制、地元高校の育成などが図られる必要がある。
- ・募集定員は、第3学区に集中することなく、各校に一定規模の生徒数を確保。

## 【特色化・魅力化】

### ＜地元高校の支援＞

- ・存続に向け地域や行政の支援が必要。
- ・学力面だけにとらわれず、それぞれの地域や自治体が高校と一緒にあって、各校の実態に即した魅力ある学校づくりを。
- ・地域が一体となって地元の高校を盛り立てようとする雰囲気があり、これからも生徒が行きたい学校と思える学校になってほしい。

### ＜特色あるコース・学科＞

- ・普通科高校においても特色あるコースを設定するなど、特色化を先鋭化しても良いのではないかと。
- ・自由な発想による、既存の枠にとらわれない学科の創出。
- ・普通科においてICTを活用した授業及び学校作りに特化することによって、特色化や魅力化につながる。

### ＜効果的な発信等＞

- ・急激な少子化問題に直面する地域の高校が、一定の募集定員を確保しやすいように、全県の生徒や保護者に見える形で特色・魅力を積極的に発信していくことが必要。
- ・現在、県教育委員会・各高等学校の教職員が、地元校の育成に向け努力されていることを、今以上にうまく発信できないか。
- ・各高校の特色化・魅力化の推進が一層必要。
- ・子どもたちが主体的に進路選択を行えるように取り組んでいただきたい。

## 公立高校の在り方に関する聞き取り調査結果(詳細版)

徳島県教育委員会では、通学区域制に関する有識者会議を開催するにあたり、公立高校の在り方に関する県内24市町村教育委員会の意見を把握するため、令和6年6月下旬から7月上旬にかけて、聞き取り調査を実施いたしました。

ここでは、各市町村教育委員会から頂いた御意見を紹介いたします。

		生徒数の減少を見据えた公立高校の在り方の方向性
1	徳島市	<p>(適正配置・再編統合等)</p> <p>今後、生徒数が減少することは確実であり、高校の在り方についての議論は避けられないと思われる。過去の専門高校等の再編において生じた課題を十分に考慮し、全県的な視野に立った議論をしていただきたい。</p> <p>まずは、県教委として、生徒数が減少しても現在の高校数を維持するのか、又は、一定数の学校規模を維持するために学校再編の必要があるのか、方向性を示すことが望ましい。</p>
2	鳴門市	<p>(特色化・魅力化)</p> <p>各高校においては、「スクールミッション」「スクールポリシー」を定め、特色化・魅力化を進めているが、普通科高校においても特色あるコースを設定するなど、特色化を先鋭化しても良いのではないかと考える。</p> <p>例えば、鳴門高校に「教員養成コース」を設置し、鳴門教育大学と連携することにより、「学校の先生になるなら鳴門高校」という特色を出すことができるとともに、課題となっている教員不足対策や高度なICT教育を推進できる教員人材の育成・確保にもつながる可能性がある。</p> <p>また、鳴門市は県内随一の観光都市であり、四国霊場88か所巡礼の出发点でもある。こうした条件を活かすとともに、今後のインバウンド需要等に対応できる人材を輩出することを目的として、鳴門渦潮高校に「ビジネス英語」や「ホスピタリティ」を学べるコースを設置することを提案したい。</p> <p>鳴門市や鳴門市教育委員会は、市内に存する二つの県立高校である鳴門高校と鳴門渦潮高校の、魅力化・特色化の取組に対して、直接的・間接的な支援のほか、高校生の学力向上に資する施策を展開することを検討中である。</p> <p>なお、高校の魅力化・特色化を進めるからこそ、「学びたい学校」にフラットな条件で進学できる教育環境が必要不可欠であり、高校の特色化・魅力化を進めていく上でも「通学区域制」の廃止が必要であると考えられる。</p>
3	小松島市	<p>(適正配置・再編統合等)</p> <p>生徒数が減少しても、よりよい教育環境等の確保のための方策(適切な学校数の設定、私立高校とのバランスある学校再編、専門高校との融合等)を行い、遠距離通学者の抑制、地元高校の育成などが図られる必要がある。</p>
4	阿南市	<p>(特色化・魅力化)</p> <p>自由な発想による、既存の枠にとらわれない学科の創出。</p> <p>今後も不断の努力により、生徒にとっては通いたい学校、保護者にとっては通わせたい学校、職員にとっては勤めたい学校の育成をお願いしたい。</p>
5	吉野川市	<p>(適正配置・再編統合等)</p> <p>通学区域制に関する議論を深めることに併せて、県内全体の再編も含めた将来的な公立学校のあり方を検討していただきたい。</p> <p>生徒数の減少が懸念される中、今後、高校の再編は避けて通れない課題であると考えられる。仮に学区制の撤廃となると、徳島市内への一極集中という事態も想定されるわけで、本市も含めた県西部地域にもその影響が懸念される。よって、県西部地域における教育振興策として、例えば新たな総合(普通科を含む)高校を新設(校歌や制服等全て一新)する構想も考えられる。予算的な問題(制約)もあるだろうが、高校の魅力化(生徒のニーズに応える)の推進という観点からも議論の俎上にあげていただきたい。</p> <p>他の都道府県とは異なる徳島県の実情を踏まえ、混乱を招かぬよう今後学校現場の(中学校も含めた)声や要望も大事にしながら、本県に適した入試制度のあり方も含め、県下全体の公立高校の将来を見据えた方向性を示していただきたい。</p>

		生徒数の減少を見据えた公立高校の在り方の方向性
6	阿波市	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 地元普通科高校は、長きにわたり地元を支える人材を輩出しており、なくてはならない学校である。また、地域が一体となって地域の高校を盛り立てようとする雰囲気があり、これからも生徒が「行きたい学校」と思える学校になってほしいと願っている。 そのためにも、各高校が魅力や特色ある学校づくりに努め、進学、スポーツ、就職等の実績を挙げていただきたい。
7	美馬市	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 将来的に生徒数の減少が見込まれるため、学校規模の縮小はやむを得ないが、各地域の拠点となる高校が存続できるよう努めてほしい。県内の公共交通機関の現状や保護者の経済的な負担等を考えると、再編統合についても慎重な議論が必要だと考えている。各地域の高校がより一層、魅力化に向けた取組を推進することで、子どもたちが学びたいと思える高校が今後も地域に存続するよう、地元高校の取組を応援していきたい。
8	三好市	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 急激な少子化問題に直面する地域の高校が、一定の募集定員を確保しやすいように、全県の生徒や保護者に見える形で「高校の特色化・魅力化」を積極的に発信していくことが求められる。特に、教育課程を弾力的に運用できる学科の新設や生徒、保護者の関心の高い「高校卒業後の進路に結び付く特色や魅力」を伝えていく努力も必要である。 県内各地域には、社会を支える人材を育成するために核となる高校が必要であり、各自治体とも連携しながら地元高校を継続的に支援する体制づくりが必要である。
9	勝浦町	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 地元の高校を残してほしい。再編等を考える場合、失うものと得るものを確認した上で、議論してもらいたい。単純に生徒数の少ない学校を再編するのではなく、小規模校でしかできない教育の良さという視点も必要。 高校の存続は中山間地域の公共交通の維持にも関係している。 現在では「農業」を学校名に含んだ高校がないため、農業を学ぶにはどこへ進学すればよいのかわかりにくい現状がある。
10	上勝町	(特色化・魅力化) 現在、県教育委員会・各高等学校の教職員が、地元校の育成(中学生が行きたい学校)に向け努力されている。このことを、今以上にうまく発信できないか。
11	佐那河内村	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 各高校の特色化・魅力化の推進が一層必要と考える。同時に少子化を見据えた高校の再編等の議論のスタートも必要である。
12	石井町	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 通学区域制の廃止とともに、現在の高校の配置を維持しながら、募集定員については、第3学区に集中することなく、各校に一定規模の生徒数を確保する。また、高校の特色化・魅力化を維持し、文系・理系、私立・国公立大学への進学実績を特色に含めて情報発信することで、子どもたちが切磋琢磨する環境を整えるとともに選択の幅を広げる。これらにより地域間の「不平等」を解消し、通学区域制により固定化された学校間格差の是正につなげる。 遠距離通学への影響は、第1学区・第2学区の現状を踏まえても、過度な遠距離通学にはならない。また、保護者の費用負担が生じる場合は、通学費補助制度の創設を検討する。
13	神山町	(適正配置・再編統合等) 阿南市、小松島市や吉野川市、阿波市、美馬市で普通科高校の再編が必要である。普通科高校で小規模になるとスケールメリットがなくなり、効率が悪くなるため。

		生徒数の減少を見据えた公立高校の在り方の方向性
14	那賀町	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 生徒数減少に伴い再編統合が進むと、地域間格差が生じる懸念がある。存続に向け地域や行政の支援が必要と思う。
15	牟岐町	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 子どもたちの行きたい高校が地元にあることが、生徒・保護者にとって一番幸せなことだと感じる。そのため、すぐには効果が現れにくいのが、学力面だけにとらわれず、それぞれの地域や自治体が高校と一緒にあって、各校が置かれた実態に即した魅力ある学校づくりをこれからも続けていってほしいと願っている。
16	美波町	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 生徒数で学校の存続に言及するのではなく、義務教育ではないものの、県都から離れて暮らす子ども達が切り捨てられることのないように、自宅から通学できる範囲に公立高校があり、県下同水準の学びが保障される環境を維持して欲しいと思います。更に、県都から離れても進学先として生徒の選択肢に入るような、魅力ある学校づくりに力を注いで欲しいと思います。
17	海陽町	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 少子・高齢化や社会情勢の変化が進む中、社会や生徒の多様化するニーズに対応するために改めて公立高校のあり方について考えなければならない時期に来ていると認識している。 公立高校は、従来から地域コミュニティや地域文化の拠点として、また、地元幼・小・中との一貫した教育の充実にもその役割を果たしている。その上に、公立高校が市町村に存在することにより、人口や経済に大きく貢献しており、市町の地方創生に直結している。そういう状況の中、本町では、当事者意識を持って高校と共に地域づくり、人づくりに取り組み、地元高校存続・活性化に取り組んでいるところである。
18	松茂町	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 募集定員での調整。 AI時代を見据えた学科の編成。
19	北島町	(適正配置・再編統合等) 通学区域制の議論だけではなく、高校再編についても検討すべきである。高校として機能するのかという観点で最も大事。そのためには、学校規模の確保が必要であり、教員の熱意と地域の理解は欠かせない。特に普通科高校は小規模では機能しないのではないかと。県西部、県南部に拠点となる高校を絶対に残さなくてはならない。
20	藍住町	(適正配置・再編統合等) 生徒数の減少に伴う高校の統廃合は、やむを得ない部分もあると思うが、最も重要視すべきは、功利性ではなく、生徒の将来の保障である。私立学校の少ない本県においては、公立校の果たす責任は、他県とはその重さが大きく異なると思う。統廃合を進める場合もこれにより地元に進学したい学校が無くなり、遠距離通学により経済的な負担を強いられる生徒、保護者への支援が永続的に必要である。また、都市部に比べ、公共交通機関が脆弱であり通学に困難性が高いことも考慮する必要がある。
21	板野町	(特色化・魅力化) 普通科の高等学校においてICTを活用した授業及び学校作りをしているところはないと思われるので、それに特化することによって、特色化や魅力化につながり、さらには上位校に進む足がかりになる。
22	上板町	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 本県でも少子化が加速しており、現状の高校数を維持していくことは困難になると推測される。生徒数の減少に加えて多様化、国際化する生徒への対応、また、生徒の通学エリアを考慮する等、将来を見通した適正規模への高校の再編とそれに伴う学区制の改革は必要であると考えている。 また、全国的な私立高校の誘致に加え、県内は勿論、全国から広く生徒が集まるような将来を見越した魅力ある学科や高校の設立、保護者や地域から信頼・納得されるような特色ある取組や再編と同時に、学区制を改革した上で、地元の学校に通学したくなる高校の魅力化や活性化、生徒が再チャレンジできる入試制度の抜本的改革を実施していただきたい。

		生徒数の減少を見据えた公立高校の在り方の方向性
23	つるぎ町	(特色化・魅力化) 県全体で各高校の魅力化・特色化を図っていき、子どもたちが主体的に進路選択を行えるように取り組んでいただきたい。
24	東みよし町	(適正配置・再編統合等、特色化・魅力化) 通学距離があまり遠くない範囲で、地域ごとに生徒や保護者から選ばれるような核となる普通科高校が必要である。教育DXを一層進めたり、スポーツや文化の分野で選択肢を広げたりするなど、各校の魅力化や特色化を図っていかなければならない。また、専門高校もバランスよく全県的に配置する必要もある。そのためにも地元教員の配置と適正規模化を図っていかなければならない。

**「新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議」報告書**（令和4年2月）

## ◇「公立高等学校の協働的な学びの確保に向けた方策」についての提言

## ＜提言＞

- (4) 各高等学校の切磋琢磨や、地域社会、各種団体等との連携を通じて、生徒の可能性を広げることにつながる魅力ある協働的な学びを創出していくことを期待したい。
- (5) 部活動や学校行事等、同じ空間で時間を共にすることを通じた生徒同士の関わり合いが協働的な学びの基本となる。必要な教職員数を維持し、学校の活力や多様性を確保するためには、一定の学校規模を確保することが望ましい。
- (6) 将来的な生徒数の減少、とりわけ地域ごとの生徒数の減少状況を見据えて、再編統合による高等学校の特色化・魅力化を図る視点も必要である。また、適正配置、再編統合の方針等を検討する際には、地域振興の核としての高等学校の役割や地元地域等に与える影響を考慮し、様々な意見を聞いて進める必要がある。

## ＜考え方及び留意事項－提言(4)について－＞

- スクール・ミッション、スクール・ポリシーのもと、各高等学校独自の特色や魅力を持った協働的な学びを創出する必要がある。
- ICTの活用や学校行事等を通じた各高等学校の連携によって、協働的な学びを展開していくことを期待したい。
- 地域や各種団体、企業、同窓会の先輩等、学校外の方々と関わる機会を創出し、様々な考え方や価値観に触れ、生徒の可能性を広げてもらいたい。

## ＜考え方及び留意事項－提言(5)について－＞

- 学校が小規模化することで、必要な教職員数の確保が困難になるなど、学校の活力・多様性が低下し、協働的な学びの機会の確保が困難になることが懸念されるため、教職員数及び生徒数を一定数維持する必要がある。
- 部活動については、集団で活動する部活動を含め、一定数以上の部活動が維持できる学校規模が望ましい。

## ＜考え方及び留意事項－提言(6)について－＞

- 協働的な学びを確保し、各高等学校の特色化・魅力化を推進するためには、将来的な生徒数の減少、とりわけ地域ごとの生徒数の減少状況を見据えて、様々な意見を聞いた上で高等学校の適正配置や再編統合を考える必要がある。
- これまでの本県高等学校の再編統合が主に専門高校・専門学科を中心に行われたことや、全県的な高等学校の配置等の観点から、普通科を中心とした再編統合について検討する必要がある。
- 多様な学びに対するニーズへの対応及び全県的な配置の観点から、定時制課程や通信制課程の高等学校の適正配置等について検討する必要がある。
- 高等学校の適正配置や再編統合を考える際には、スクールバスの運行等について検討する必要がある。

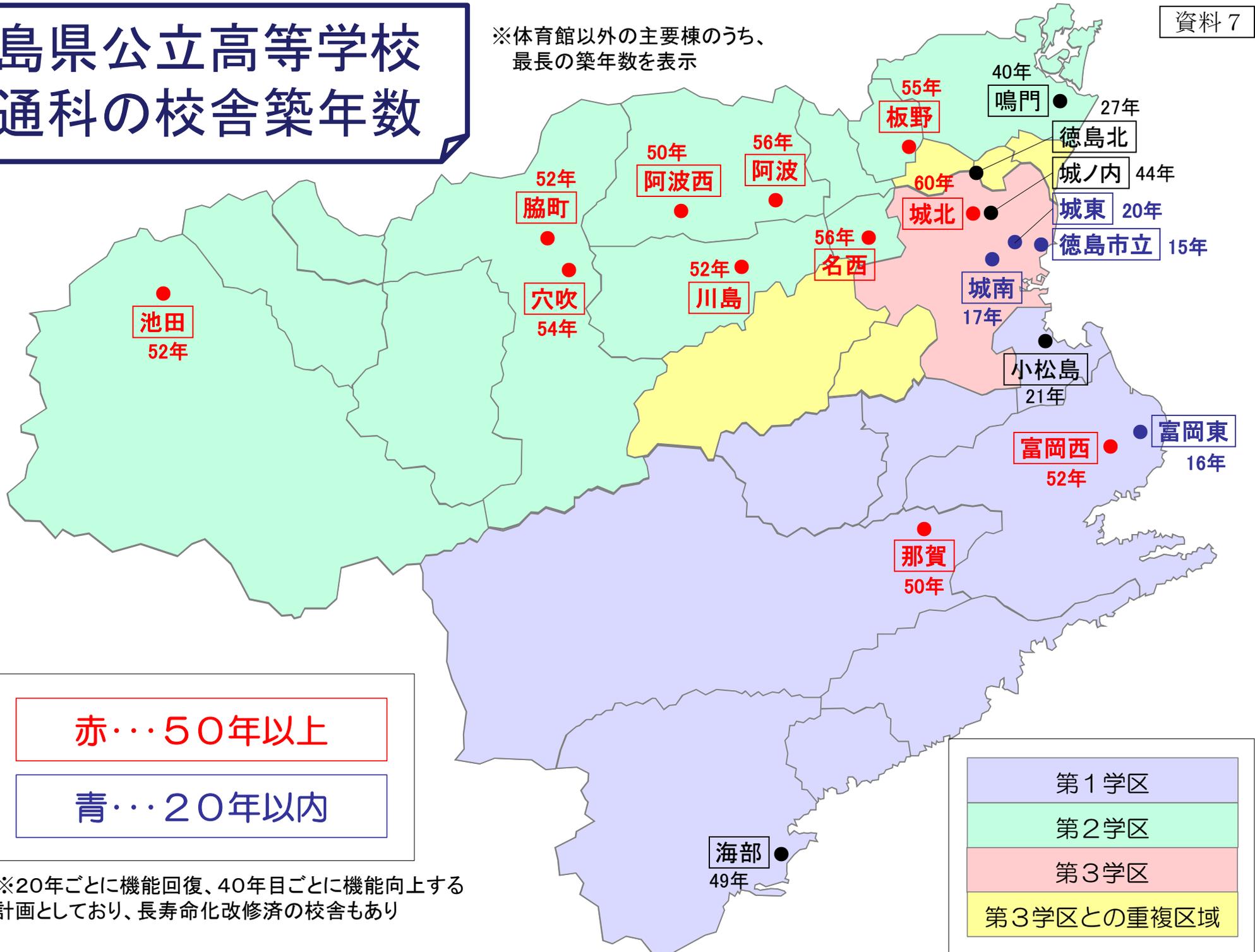
## 県内生徒数の地域別推移（予測）

地域	中学3年時	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	高校入学 年度	R4	R5	R6	R7 (現中3)	R8 (現中2)	R9 (現中1)	R10 (現小6)	R11 (現小5)	R12 (現小4)	R13 (現小3)	R14 (現小2)	R15 (現小1)
県全体		6,035	5,872	5,894	5,722 △ 172	5,872 +150	5,719 △ 153	5,621 △ 98	5,464 △ 157	5,470 +6	5,436 △ 34	5,241 △ 195	5,090 △ 151
徳島市		2,300	2,162	2,224	2,200 △ 24	2,218 +18	2,265 +47	2,064 △ 201	2,061 △ 3	2,065 +4	2,090 +25	2,006 △ 84	2,017 +11
鳴門市		392	421	416	362 △ 54	398 +36	364 △ 34	439 +75	381 △ 58	374 △ 7	363 △ 11	354 △ 9	302 △ 52
小松島市		264	275	266	249 △ 17	258 +9	215 △ 43	233 +18	226 △ 7	224 △ 2	203 △ 21	227 +24	175 △ 52
阿南市		676	678	637	645 +8	652 +7	563 △ 89	601 +38	547 △ 54	520 △ 27	573 +53	507 △ 66	510 +3
吉野川市		292	319	308	291 △ 17	296 +5	298 +2	272 △ 26	252 △ 20	279 +27	248 △ 31	246 △ 2	243 △ 3
阿波市		316	255	285	243 △ 42	284 +41	248 △ 36	221 △ 27	247 +26	233 △ 14	255 +22	218 △ 37	232 +14
美馬市		196	191	205	178 △ 27	208 +30	205 △ 3	173 △ 32	191 +18	166 △ 25	174 +8	169 △ 5	188 +19
三好市		158	141	140	159 +19	138 △ 21	135 △ 3	140 +5	150 +10	135 △ 15	130 △ 5	129 △ 1	98 △ 31
勝浦郡		38	33	40	38 △ 2	37 △ 1	32 △ 5	23 △ 9	33 +10	40 +7	24 △ 16	36 +12	34 △ 2
名東郡		13	11	10	11 +1	17 +6	15 △ 2	15 ±0	15 ±0	10 △ 5	14 +4	5 △ 9	14 +9
名西郡		219	211	211	233 +22	228 △ 5	234 +6	248 +14	236 △ 12	238 +2	234 △ 4	239 +5	180 △ 59
那賀郡		46	48	36	37 +1	46 +9	35 △ 11	35 ±0	40 +5	42 +2	33 △ 9	41 +8	41 ±0
海部郡		112	93	105	99 △ 6	101 +2	90 △ 11	93 +3	78 △ 15	101 +23	78 △ 23	87 +9	69 △ 18
板野郡		864	875	879	826 △ 53	832 +6	848 +16	928 +80	872 △ 56	878 +6	881 +3	844 △ 37	868 +24
美馬郡		52	46	29	50 +21	39 △ 11	53 +14	35 △ 18	38 +3	59 +21	31 △ 28	33 +2	33 ±0
三好郡		97	113	103	101 △ 2	120 +19	119 △ 1	101 △ 18	97 △ 4	106 +9	105 △ 1	100 △ 5	86 △ 14

※高校入学年度R7～R15は、学校基本調査（R6.5.1速報値）の現中3～現小1の生徒数

※体育館以外の主要棟のうち、  
最長の築年数を表示

# 徳島県公立高等学校 普通科の校舎築年数



赤・・・50年以上

青・・・20年以内

※20年ごとに機能回復、40年目ごとに機能向上する  
計画としており、長寿命化改修済の校舎もあり

- 第1学区
- 第2学区
- 第3学区
- 第3学区との重複区域

## 入学者選抜 徳島市公立中学校から市外普通科の進学者数(一般選抜のみ)

※ 第1回有識者会議 資料6の補足

高校名	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
小松島	34	36	41	56	41	54	41
富岡東	0	0	0	1	0	0	1
富岡西	0	0	0	1	0	0	0
那賀	0	0	4	2	4	3	4
海部	1	3	0	1	1	1	2
鳴門	10	13	10	12	7	8	18
板野	7	11	8	5	4	6	0
名西	15	20	10	7	7	3	12
川島	0	0	0	0	0	1	1
阿波	0	0	0	0	0	0	0
阿波西	0	0	0	0	0	0	0
穴吹	5	4	7	1	4	1	0
脇町	0	0	0	0	0	0	0
池田	0	0	2	0	0	1	0
合 計	72	87	82	86	68	78	79

第1学区	35	39	45	61	46	58	48
第2学区	37	48	37	25	22	20	31